

令和8年3月に発生した農作業死傷事故 5月のワンポイント 農林水産省HP等による公表

タイトル：田植えの季節です！田植機での作業に気をつけましょう
〈3月に発生した農作業死傷事故：25件〉
うち農業機械作業に係るもの：17件

○3月は12件の死亡事故を含む25件の死傷事故が報告されました。

○17件発生した農作業機械に係る事故のうち、乗用型トラクターによる事故は8件と半数近くを占めています。また、過去5年間の農業機械作業に係る死亡事故のうち、約4割が乗用型トラクターによる事故です。

○乗用型トラクターは耕耘、防除、収穫、運搬など利用機会が多く、農作業中の事故は1年を通じて発生しております。特に「転倒・転落」による事故が多く発生しておりますので、安全キャブ・フレームが装備されたトラクターの使用や、事前に道路やほ場などの使用環境を確認し、危険個所があった場合は、必要な対策（対策例：路肩は分りやすくするため草刈りを行い、軟弱な場合は補強する、路面の轍、水溜り、侵食されてできた溝等は平らにする等）を講じるようにしてください。

〈5月のワンポイント〉

○5月は田植シーズンですので、例年、田植機による事故が発生しています。

○田植機を扱う際には以下の点に気を付けましょう。

- ① トラックから田植機を降ろす際は、十分な強度があり、荷台高さの4倍以上の長さがあるあゆみ板を使い、できるだけ低速で積み下ろしましょう。
- ② 転落しないよう、狭い通路は補助者が誘導、路肩は草刈りをしてポールなどの目印を設置しましょう。
- ③ ほ場の出入口のスロープを上る際は、前輪が持ちあがったり、滑りやすいので後進で、降りる場合は前進で、ゆっくり走行しましょう。以下のイラストのようにおもりとして乗っている補助作業者が振り落とされる事故も発生しています。

○また、4月～6月は「熱中症等対策研修強化期間」です。地域で行われている研修に積極的にご参加ください。5月から気温も上がり、熱中症など暑さに起因する事故が増加する危険性がありますので、こまめな休憩や水分・塩分などの暑さ対策を実施しましょう。



2人乗りは危ないので絶対にやめましょう！

* 予防のポイント *

- 暑さを避ける**
高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業
 スマート農機を使用した作業の省力化・軽労化
- こまめな休憩と水分補給**
喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給
- 単独作業は避ける**
複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う
- 熱中症対策アイテムの活用**
帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用

そのほか、日々の体調管理など熱中症に負けない体づくりをしておきましょう！

農林水産省

熱中症予防のポイント